

若手職員の声 家庭裁判所調査官補

My Pride

一人一人の少年、一つ一つの家族に
向き合えること

東京家庭裁判所立川支部 家庭裁判所調査官補

大林 健太郎 (R5採用)

出身学部 法律系学部



就職先として裁判所を選んだのはなぜですか。

大学の説明会で家裁調査官のことを知りました。一つ一つの事件に向き合い、法律的な解決を図るだけでなく、事案の本質を捉えた適正な解決を目指すという家庭裁判所の役割や家裁調査官の仕事に魅力を感じました。また、研修制度が整備されていることも魅力でした。

採用試験に向けて、どのような勉強をどのようなスケジュールで取り組みましたか。

大学内の公務員対策講座の受講を試験の約1年前から始めました。3か月前から過去問を試験と同じ時間で解き、実力と課題の把握に努めました。人物試験の対策には特に力を入れ、年明けから模擬面接を繰り返し、志望動機の整理や伝え方の改善を図りました。

これからの目標を教えてください。

日々の調査事務の中で、当事者の数だけ、様々な人生や思い、家族の形があると常々感じています。全ての事件に真摯に向き合い、一人一人の少年、一つ一つの家族に即した適正な解決についてひたむきに考え続ける調査官になりたいと思っています。